| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義名 | 財務会計論Ⅱ | | | | |
| 科目区分 | 学科専門　展開 | | | | |
| 担当教員 | 孫　美 | | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 水曜日 ２時限 | | 授業形態 | | |
| | 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／<br>2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／ | | | | |
| 履修開始年次 | ３年生 | 単位数 | 2 | 備考 | |

## 主題と概要

本講義は簿記・会計の基礎知識を理解している受講者を対象に、貸借対照表の個別テーマを詳細に取り上げます。損益計算書については少し触れる場合がありますが、時間の関係上体系的に取り上げることはありません。授業計画に列挙されている個別テーマについてどのような会計処理が行われるかについて紹介し、またなぜそのような処理を行うかについて背後にある会計理論を交えて解説します。
本講義は簿記技能を高めるための科目ではないが、日商簿記検定2級や1級の内容を理解するための手助けになります。

## 到達目標

日商簿記検定2級や1級の一部の会計処理方法と、会計処理の背後にある理論知識が身に付きます。

## 提出課題

ほぼ毎回の授業で課題の提出を求めます。

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

課題提出後は解答を配布します。

## 評価の基準

平常点60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

注：以上は平常時の評価方法です。新型コロナウィルスによるオンライン講義では、定期試験を実施せず、課題の提出で評価します。

## 履修にあたっての注意・助言他

本講義は日商簿記検定試験の2級（一部は1級）の内容を扱うので、3級以上の知識を有することを前提に講義を進めます。「商業簿記Ⅱ」を履修済みであることが望ましいです。簿記の初級者を対象とした科目ではないので留意してください。

## 教科書

## プリント資料及び参考文献

＜教科書＞
指定テキストはございません。講義中、資料を配布します。

＜参考図書＞
桜井久勝著『財務会計講義』第20版、中央経済社、2019年。
伊藤邦雄『新・現代会計入門』第3版、日本経済新聞出版社、2018年。

## 授業計画

第1回　ガイダンス・利益の計算方法
第2回　企業会計原則
第3回　資産の構成・有価証券
第4回　棚卸資産
第5回　有形固定資産
第6回　無形固定資産
第7回　減損会計
第8回　負債の構成・社債
第9回　引当金
第10回　資産除去債務
第11回　リース会計①
第12回　リース会計②
第13回　退職給付会計
第14回　純資産の構成・払込資本
第15回　評価換算差額等・新株予約権

以上の計画は、講義の進み具合によって少し前後する可能性があります。

注：以上は平常時の計画です。オンライン講義でもできるだけ以上の内容で進めていきたいですが、シラバスを作成する時点ではオンライン講義でどこまで進められるのか、新型コロナウィルスによるオンライン講義がいつまで続くのかなど不確定要素が多いですので、授業内容の変更はオンライン講義で口頭もしくは資料でお知らせします。

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|---|---|
| ○ | ア：PBL（課題解決型学習） |
| | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| | ウ：ディスカッション、ディベート |
| | エ：グループワーク |
| | オ：プレゼンテーション |
| | カ：実習、フィールドワーク |

## 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

指定テキストがなく、講義中資料を配布するので予習は必要ありませんが、復習は必要です。1コマあたり約1時間の復習を心掛けてください。普段の復習を怠ると、定期試験直前の全体復習の際より多くの時間を費やす必要があります。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。ICTは利用しません。

## 実務経験の有無及び活用

実務経験あります。
実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思います。

## 備考